

# 5 施策展開と展開のプロセス

## 施策展開のテーマと方針

観光まちづくりを愉しみ、両国の魅力を地域内外に華々しく発信するために、3つのテーマを設定し、施策を展開します。

### 施策展開のテーマ: 両国川開き

夏の隅田川を華やかに彩る花火大会の起源となった「両国川開き」をテーマとし、隅田川の水辺の賑わいととも、まちに溶け込みまちに開く竪川の記憶や川とともにある暮らしなど、かつてあった水辺の記憶を発信します。

隅田川や竪川、南割下水（現在の北斎通り）等、かつてあった水辺を中心に賑わいと情緒を創出します。隅田川等の水辺までの動線を整えるとともに、水辺のイベント、散策や休憩、水上交通を楽しめる環境を整えます。

- ・両国川開きの賑わいの再生と創出
- ・まちの親水性の向上
- ・街並みの修景と誘導

### 施策展開のテーマ: 両国博覧会

両国の発展の基礎を築いた回向院、回向院で執り行われた勤進相撲、参詣によって賑わった東広小路、東広小路で花開いた食文化や北斎の浮世絵などの芸術文化等、両国のまちに広がる物語を「両国博覧会」をテーマとして紡ぎ出し、発信します。

史跡・旧跡、相撲部屋、小さな博物館や工房ショップ、老舗の飲食店等、両国固有の資源の魅力の向上を図ります。また、個々の資源をつなぐ環境整備や、地域文化の継承・活性化を促し、発信するしかけづくりを展開します。

- ・地域資源の活性化と賑わい軸の強化
- ・江戸の粋な文化の発信
- ・ものづくりの伝統の継承と発信

### 施策展開のテーマ: 両国棧敷

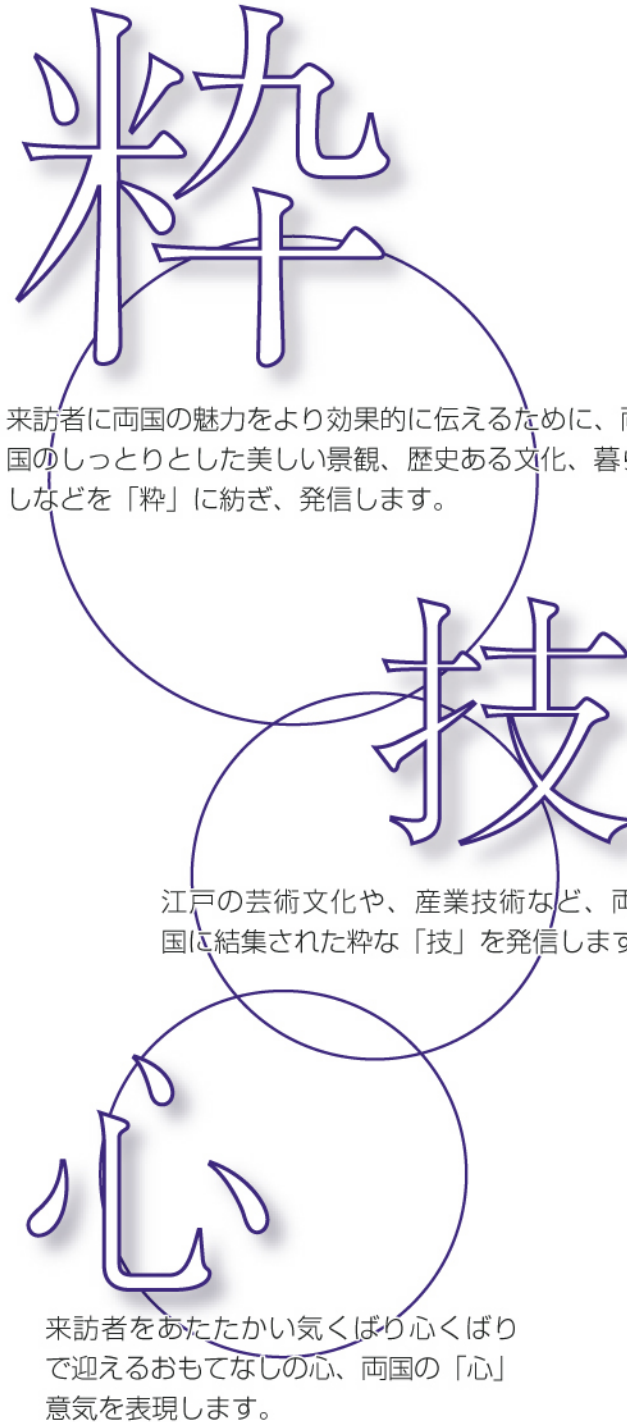
かつて両国川開きの季節になると、隅田川の水辺は花火を楽しむ人々のための棧敷となりました。今も、国技館では棧敷で相撲の観覧が楽しまれています。「両国棧敷」をテーマとし、両国らしいおもてなしの心意気や活気を発信します。

両国の玄関である駅前やバス停等の交通拠点や、迎える側と来訪者が会えるまち歩きの出発点、各施設・店舗等、おもてなしの場を整え、両国の心意気を伝えます。案内サインや情報発信によるまち歩きのしかけ等、両国らしいおもてなしの素地を整えます。

- ・おもてなしの演出
- ・取り組みの底上げと連携
- ・まち歩きの充実と回遊性の向上

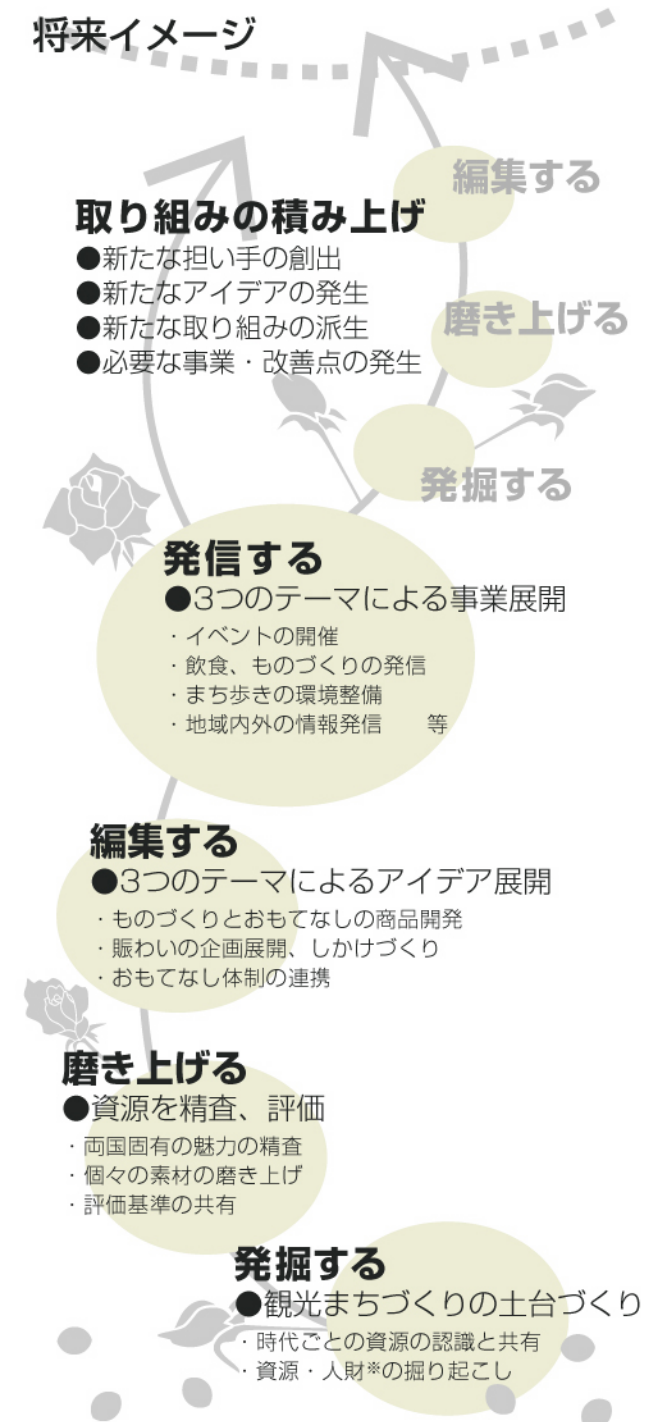
## 魅力を引き出す効果的な視点

「粋・技・心」の効果的な視点を大切にし、両国の地域資源を、より魅力的に発信します。



## 施策展開のプロセス

効果的な視点を通して発掘し、磨き上げ、編集し、具体的な事業としての展開や身近な取り組みとして発信します。



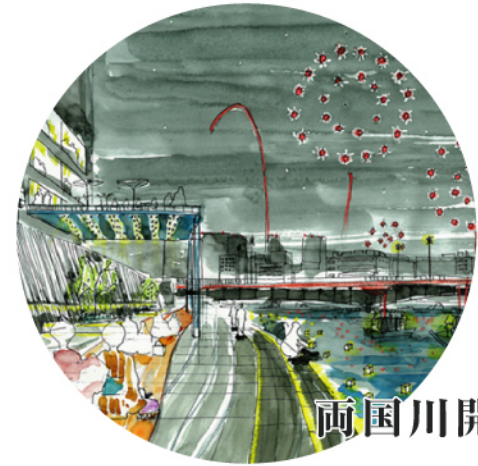
\*「人材」は、観光まちづくりに欠かせない地域の「財産」という意味で使用しています。



# 6 両国観光まちづくりグランドデザインの地域展開

## 施策テーマの地域展開

地域特性に施策展開を重ね、両国観光まちづくりグランドデザインを地域で展開します。まちの骨格と恵まれた観光資源を生かし、粋に暮らし、粋に楽しむまち両国を育てていきましょう。



両国川開き

### 両国川開きの賑わいの再生と創出

隅田川テラスや水上交通を生かし、両国川開きを彷彿させる水辺の賑わいをつくり出します。

### まちの親水性の向上

川に近づける環境づくりを目指し、川と歴史、川と暮らしのつながりを大切にすまちをつくり出します。

### 街並みの修景と誘導

竪川等の水辺や沿道のみどりを生かし、下町両国らしいしっとりとした街並みをつくり出します。

### 地域資源の活性化と賑わい軸の強化

地域資源を整え、つなぎ、歴史文化の奥行きとひろがりがある風景と、活気のある賑わいを演出します。

### 江戸の粋な文化の発信

相撲や北斎の浮世絵、江戸前寿司など、江戸の芸術文化や食文化、心意気を体験できるまちをつくり出します。

### ものづくりの伝統の継承と発信

小さな博物館や地域事業者等と連携し、ものづくりの伝統を見て、触れて、体験できるまちをつくり出します。

### おもてなしの演出

両国らしい心意気、行き届いた粋なおもてなしで、来訪者の心のお土産をつくり出します。

### 取り組みの底上げと連携

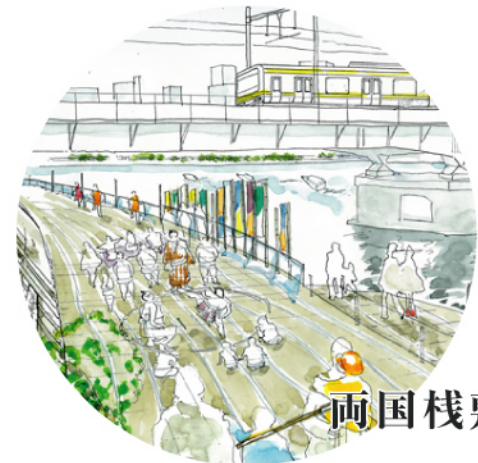
既存の地域ネットワークを生かし、情報を共有するとともに、まちと人のつながりを育みます。

### まち歩きの実と回遊性の向上

まち歩きの拠点や軸となる通りを整え、地域内外の回遊性を高め、来訪者を迎えるまち歩き空間をつくり出します。



両国博覧会



両国棧敷

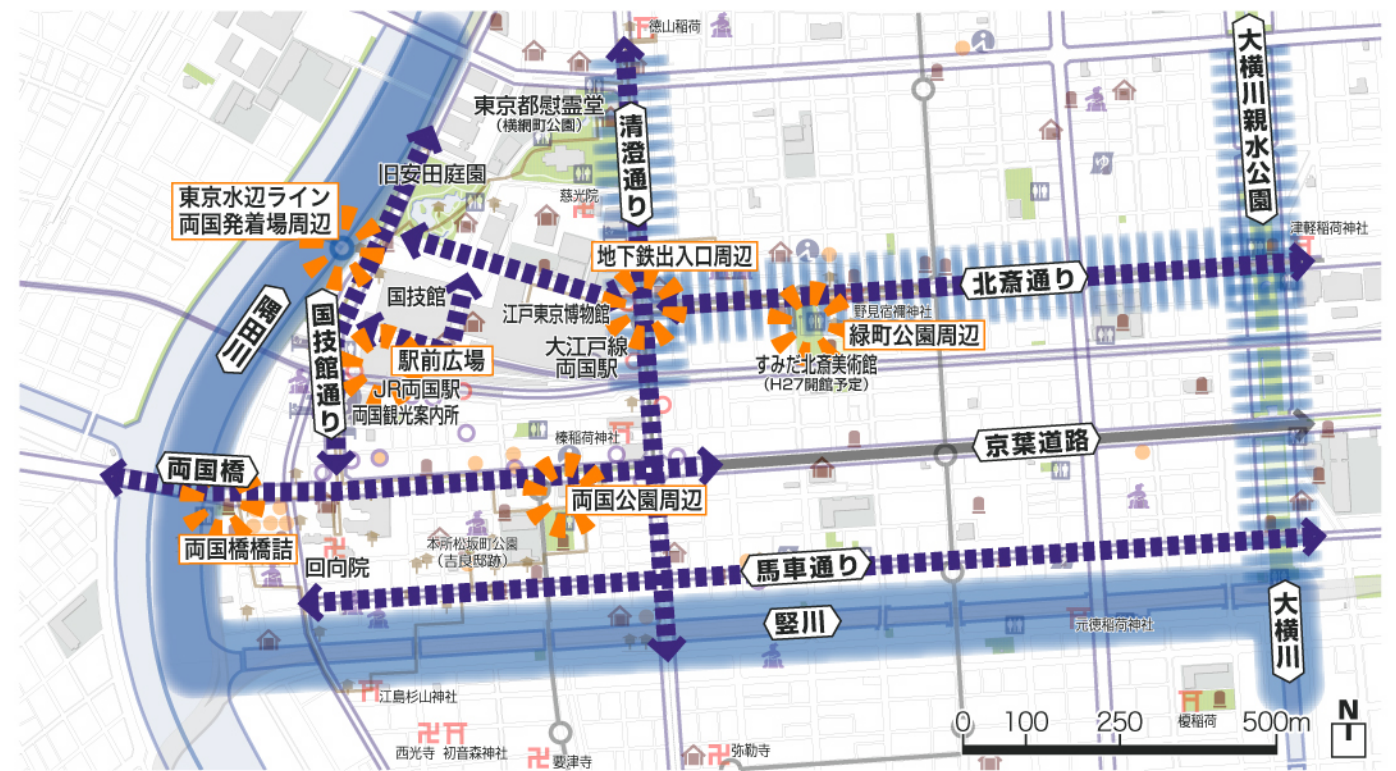
## まち歩きを中心とした地域展開

両国川開き、両国博覧会、両国棧敷の3つのテーマの下、両国地域にひろがる資源を生かしたまち歩き観光を推進します。

### まち歩きのイメージ



### まち歩きの環境づくり



(その他凡例：p.5参照)

### 賑わい軸

商店が並んでいる、電線類が地中化されている、歩道が広い、緑が多い、地域資源をつないでいるなど、まち歩きの骨格となる通りを「賑わい軸」とします。賑わい軸は、まち歩き観光の軸として、また、まちなかを安心して歩くための目印となるわかりやすい動線として、両国らしい賑わいを創出します。

### 水辺の賑わいゾーン

隅田川と竪川及び周辺エリアを「水辺の賑わいゾーン」とします。水辺のイベントやオープンカフェ、川沿いの散策やジョギング、また観光舟運などを快適に楽しむことができる水辺の環境を創出します。

### まち歩きの拠点

公共交通機関で訪れる人を迎え入れる両国の玄関としての駅前、船着場などの交通起点や、まち歩きの要所としての緑町公園周辺(すみだ北斎美術館)や両国公園周辺などを活用した観光施設を「まち歩きの拠点」とします。まち歩きの拠点は、賑わい軸と連携し、快適な回遊空間を創出します。

### 水辺の記憶ゾーン

かつて水辺のあった、北斎通り(南割り下水)、清澄通り(掘割)、大横川親水公園(大横川)を「水辺の記憶ゾーン」とします。かつての橋や橋詰め等、水辺の記憶に思いを馳せながら散策できるような案内のしくみや街並みを創出します。